

# 山武稲作情報 第1報

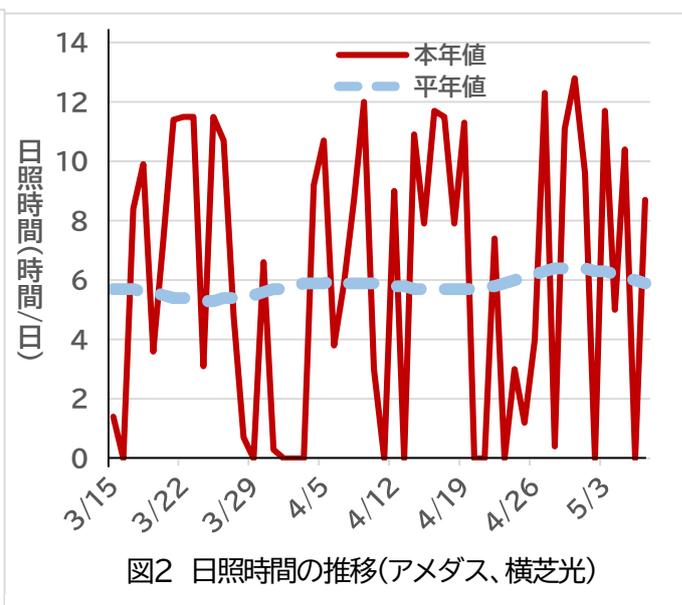
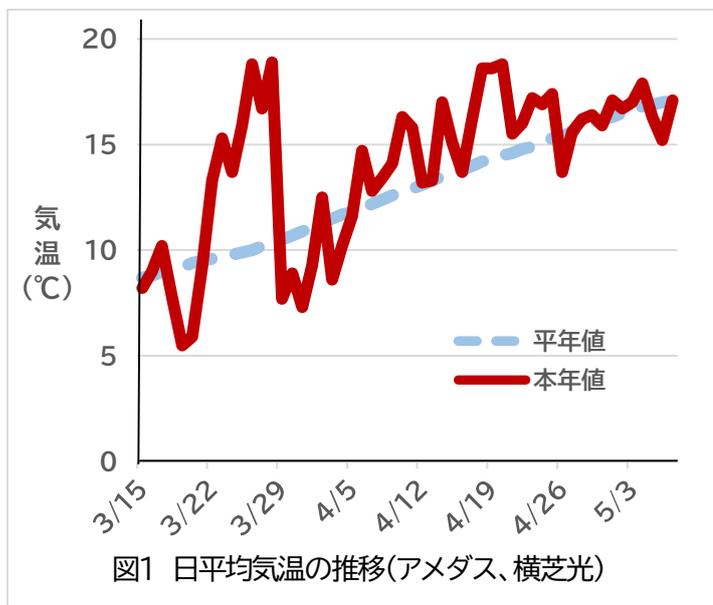
(2025年5月23日発行)



山武農業事務所 改良普及課  
TEL:0475-54-0226  
FAX:0475-52-7914

## 山武地域の生育状況

現在、山武地域の水稻の生育は草丈が低く推移する一方、葉齢はやや早く推移しています。また、茎数は品種によりバラツキが多い状態にあります。これは移植後の苗の活着遅れや、水持ち等のほ場条件の違いにより、その後の回復程度に差が出たと考えられます。移植後に強風が予想される場合は(ジャンボタニシがいるほ場では食害対策を行った上で)深水にし、苗を強風から守りましょう。また、気温上昇とともにジャンボタニシの食害が拡大しています。4葉期以降の苗は食害リスクは減りますが、大雨の影響等で冠水状態が続いたほ場では苗が軟弱になり食害を受ける期間が長くなるため、移植間もないほ場や深水状態が続いたほ場は薬剤処理や浅水管理を実施しましょう。



## 病害虫発生予察情報(5月14日現在)

\* 詳細は病害虫防除課のホームページをご覧ください。



病害虫名	予想発生量	防除上の注意事項
いもち病(葉いもち)	やや多	補植用置き苗は、発生源となりやすいので早めに処分する。
ばか苗病	やや多	ホームページに掲載の情報を参照。「イネばか苗病ゼロに御協力願います!!」( <a href="https://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/farmer.html">https://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/farmer.html</a> )
スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)	多	ほ場や用水路に貝が生息している場合は、稲が4葉期に達するまでは浅水管理(4cm以下)や薬剤防除を行う。
イネミズゾウムシ	並	移植10日後までに成虫が2~3株あたり1頭以上確認された時には薬剤防除する。
イネクロカメムシ	やや少	ほ場をよく確認し、発生の多い場合には、薬剤防除する。

## 今年の育苗を振り返って

今年の育苗は、3月の気温の寒暖差が大きく、種子消毒や浸種時の水温低下による発芽不良や不揃いが多く見られました。また、気温が低い曇天時に播種したものは、出芽が遅れる傾向がありました。他にも、一部ではピシウム菌による苗立枯病も見られました。

発芽不良や不揃いは、浸種時の水温の影響を受けやすく、10℃未満の低水温での浸種では発芽不良となる場合があります。しかし、高水温は病害の発生を助長するので、浸種の際は水温管理(10～15℃)を徹底しましょう。また、低温貯蔵種子は当年産種子よりも浸種時の低温の影響を受けやすく、低温貯蔵種子を使用する際は、特に水温の管理に注意しましょう。

### 1 種子消毒～播種期

#### ○浸種～播種時期

- ・浸種初期の低温や催芽不足により発芽の不揃いが多発しました。
- ・浸種時期の3月上旬～中旬に最低気温が5℃を下回る日が連続し、この低温により浸種水温が低下したことで、発芽不良と不揃いが発生したと考えられます。
- ・種子消毒や浸種を行う際は、必ず温度計を使用して水温を確認しながら行いましょう。深めの水槽を使用する場合、水面近くと水底の水温が異なることがあるため、温度ムラに注意しましょう。
- ・浸種後は必ず催芽を行い、ハト胸状態になったことを確認してから播種の工程に進みましょう。

#### ○播種時期の管理について

- ・3月29日～4月3日にかけて気温が低く、日照時間も少なかったため、その時期に播種した苗で、苗床の温度が確保できず生育が遅れました。そのため、例年よりも被覆日数が長くなり、過湿状態が長く続いたため、出芽以降に糸状菌等による病害が発生しました。
- ・播種日以降の気温が低く日照量が少ないことが予想される場合は、発泡シート(ミラマット®、健苗シート等)等の保温性が高い被覆資材を使用し、アルミ蒸着シート(本州太陽シート®等)等の温度上昇を抑える効果が高いシートは使わないようにしましょう。



写真1 発芽不揃い育苗箱



写真2 ピシウム菌の発生した育苗箱

### 2 育苗～植付期

#### ○育苗期

- ・4月4日以降は気温が上昇しましたが、風が強い日が多かったため換気がしづらく、育苗ハウス内が高温になりやすい天候でした。その結果、苗の徒長したハウスがやや見られましたが、徒長の程度は軽度で、移植に大きな影響はありませんでした。
- ・近年、4月の気温は例年より高い傾向にあり、苗が予定より早く仕上がるケースが増えています。適期移植のため、昼夜を通してハウス内の温度管理を徹底するか、育苗日数の短縮を検討する必要があります。

### ○植付期

- ・移植が盛んな4月中旬～5月上旬には、活着まで間に乾燥気味になる様子もありましたが、回復が見られました。また、降雨で水深が深くなったほ場でスクミリンゴガイの食害が見られます。
- ・食害防止に、水深4cm 以下の浅水管理のほか、食害防止剤や殺貝剤を使用しましょう。



写真3 スクミリンゴガイ(5月9日)

## 低温貯蔵種子の取り扱い

低温貯蔵種子は浸種初期の低温の影響を受けやすく、**水温10℃未満に遭遇すると発芽率の低下リスクが当年産種子に比べて高くなります**。毎年、1年間低温貯蔵された種子が一定量流通するため、低温貯蔵種子で育苗をする際は、以下の作業工程ごとの温度管理のポイントを参考に作業をすすめましょう。

### ・種子消毒

消毒効果を高めるために、**薬液温度を10～15℃**とし、気温の低い時期に行う際は、お湯などで薬液温度を調整しましょう。また、消毒中は2～3回攪拌し、薬剤効果の均一化と温度ムラの防止を図りましょう。

### ・浸種

種籾と水量の容量比は1:2とし、**水温は必ず10～15℃を保ちましょう**。特に、浸種開始3日後までの低温は発芽率低下に大きく影響するため、細心の注意が必要です。また、水槽内では水面と底で、水温が異なることがあるため、底の水温が10℃を下回らないように注意しましょう。

## 浸種、催芽及び出芽時の期間と温度管理のポイント

### ・浸種

浸種期間は、**積算温度(水温×日数)で100～120℃程度(水温10℃の場合10～12日間)**が目安です。種籾の胚乳がアメ色で透明、胚が白く見えている状態となっていることを必ず確認し、完了しましょう。  
※休眠が深い品種「ふさおとめ」「ふさこがね」「ひとめぼれ」は1～2日期間を延長しましょう。

### ・催芽

催芽は必ず行い、種籾が**ハト胸状態～芽長2mm**程度に揃った状態を催芽完了にしましょう。

### ・出芽

出芽期間中は**育苗箱の土に温度計を入れ地温を確認**し、無加温出芽の場合は土の温度と天候に合わせ被覆シートを選択しましょう。

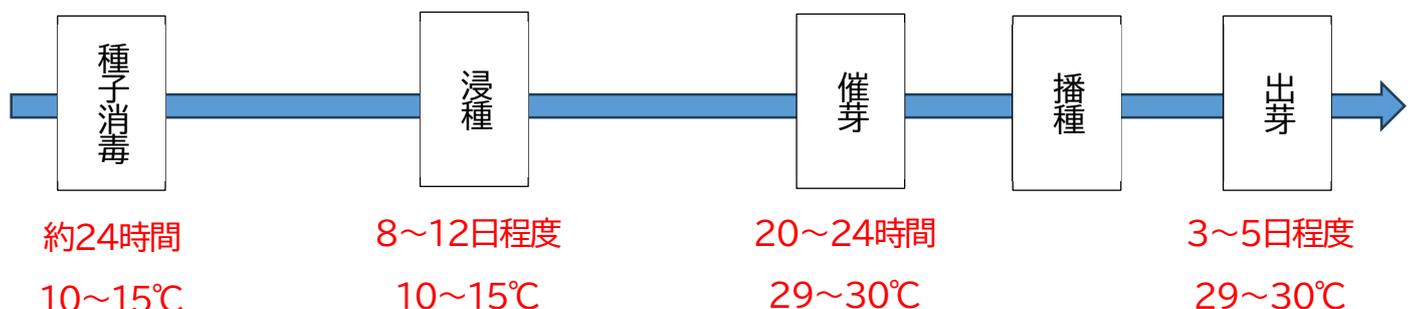


図1 育苗作業に係る時間と温度

## 生育調査結果(5月20日現在)

\*本年値の( )内は平年値(過去10年)との差を示しています。

\*幼穂形成期とは幼穂が1~2mmになる時期のことを指しています。

\*予測日は水稻生育予測システム「でるた™」(運用試験版)を用いて予測しています(アメダス横芝光)。移植時の苗の葉齢、活着状況、ほ場の気象条件、予測日以降の気象条件により誤差がある場合があります。

### コシヒカリ

場所・移植日	年次	草丈(cm)	莖数(本/m <sup>2</sup> )	葉齢
東金市 4/26移植	本年	26(90%)	100.8(85%)	5.9(109%)
	前年	26	89.1	5.5

### ふさこがね

場所・移植日	年次	草丈(cm)	莖数(本/m <sup>2</sup> )	葉齢
山武市 5/3移植	本年	22.7(98%)	105.8(112%)	5.4(115%)
	前年	23.4	94.5	4.2

### ふさおとめ

場所・移植日	年次	草丈(cm)	莖数(本/m <sup>2</sup> )	葉齢
山武市 5/2移植	本年	18.0(81%)	71.8(59%)	5.6(100%)
	前年	11.0	99.8	5.2

### アキヒカリ

場所・移植日	年次	草丈(cm)	莖数(本/m <sup>2</sup> )	葉齢
山武市 4/23移植	本年	29.3(108%)	170.0(125%)	6.2(115%)
	前年	25.3	161.8	5.7

## 幼穂形成期予測(5月20日現在)\*

移植日	品種				
	コシヒカリ	ふさこがね	ふさおとめ	粒すけ	アキヒカリ
4/20	6/23	6/16	6/15	6/22	6/13
5/1	6/29	6/21	6/20	6/29	6/18
5/15	7/6	6/29	6/27	7/7	6/27

\*幼穂形成期とは幼穂が1~2mmになる時期のことを指しています。

\*予測日は水稻生育予測システム「でるた™」(運用試験版)を用いて予測しています(アメダス横芝光)。移植時の苗の葉齢、活着状況、ほ場の気象条件、予測日以降の気象条件により誤差がある場合があります。

千葉県水稻温暖化対策研究室 成東育成地による生育調査結果(5月20日現在)

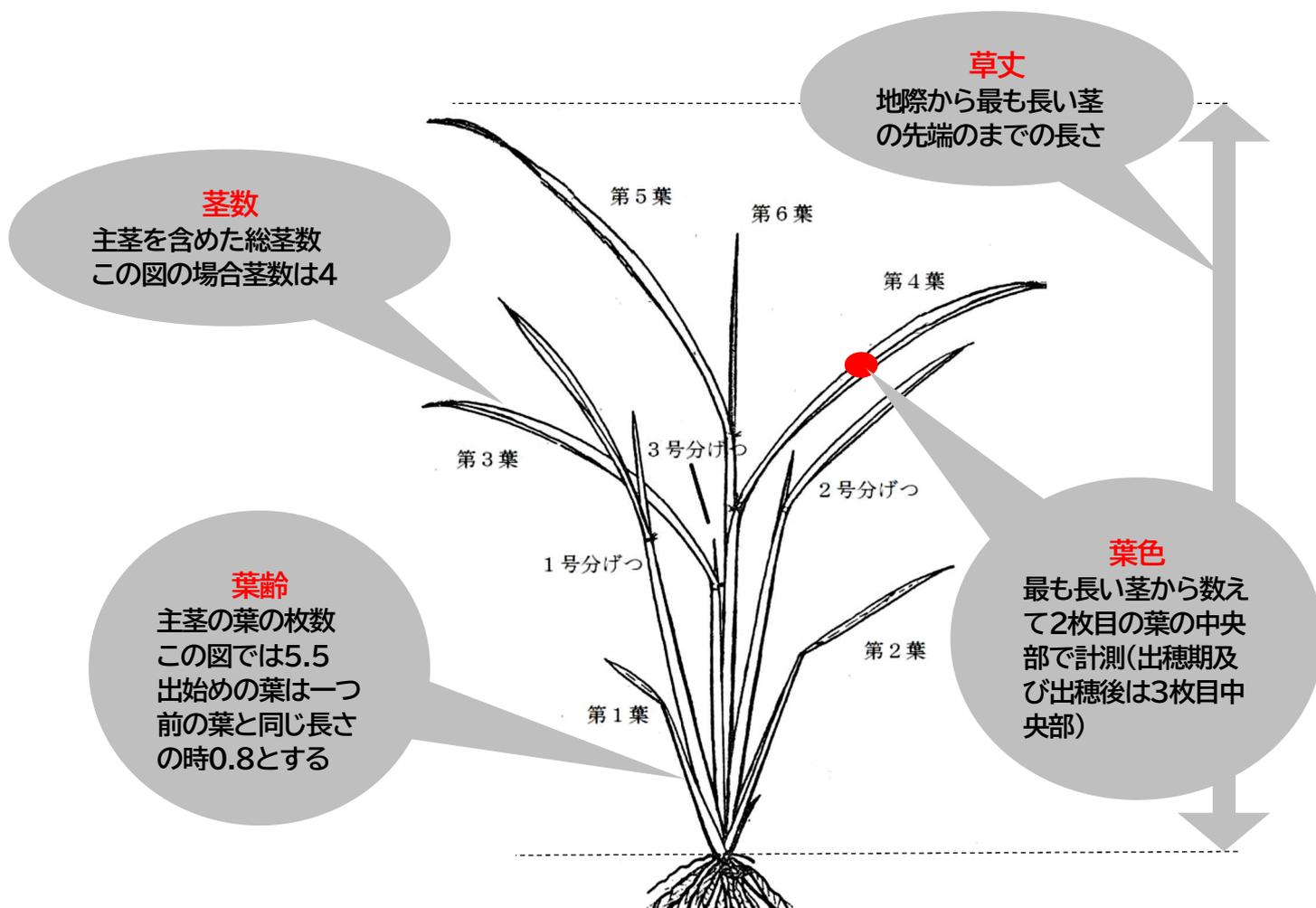
\*調査は全て山武市で行われています。

\*本年値の( )内は平年値(過去10年)との差を示しています。

品種・移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/m <sup>2</sup> )	葉齢
コシヒカリ 4/25移植	本年	27.0(98%)	107.9(54%)	5.4(90%)
	前年	29.6	227.3	6.2
ふさこがね 4/25移植	本年	22.0(90%)	122.8(55%)	6.4(102%)
	前年	24.4	256.7	6.4
ふさおとめ 4/25移植	本年	24.0(94%)	139.8(60%)	6.2(94%)
	前年	27.0	267.3	7.1
粒すけ 4/25移植	本年	22.0(91%)	124.6(61%)	6.7(112%)
	前年	25.5	228.3	6.6
粒すけ 5/15移植	本年	15.0(103%)	58.1(81%)	3.8(123%)
	前年	16.5	70.4	3.2

・データの見方(調査基準について)

以下の図を参考に、稲を観察し、調査地点の数値と比較してみましょう。



次回の発行は6月5日を予定しています。